

福島のおゆき国会日誌

<国土交通委員会質疑 日本の最高の知性を集結させた国土形成計画を>



29日、国土交通委員会で、今夏にも閣議決定される第3次国土形成計画について議論いたしました。

今回の国土形成計画のキャッチフレーズは「新時代に地域力をつなぐ国土」などという平板なものです。そしてキーワードが「シームレスな拠点連結型国土」とか「デジタルとリアル融合による活力ある国土づくり」など、2050年にどのような国になるのか、ワクワクするようなイメージは湧いてきません。齊藤鉄夫国土交通大臣に聞いても、「コンパクト化を進めつつ、デジタルとリアルを融合させる」などと意味不明の答弁でした。

こうなってしまったのも、かつては日本の最高の知性をもった人材が集まって作った「全総」に比して、官僚が今の政策を基に原案を作成し、横断的な知性や教養ではなく単なる縦割りの専門性を持った人材を集めた審議会を回して、とりまとめた作成プロセスに原因があります。

何としても政治の刷新を成し遂げ、自らの手で国土形成計画を作らなければならないと改めて決意しました。

質疑の様子は、YouTubeからご覧ください。⇒



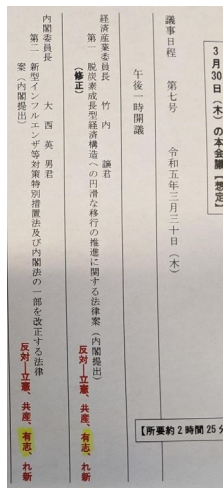
<有志の会 見せかけ法案に反対>

30日の本会議では、有志の会は二つの法案に反対をしました。まずGX（脱炭素化）推進法ですが、政府はGX関連投資の財源を新たな国債（GX債務）で賄うこととしております。そのGX債の償還財源として、化石燃料賦課金と排出量取引制度負担金を創設します。問題点の一つは、GX債の償還は2050年に終わることが法定化されているのに、化石燃料賦課金と排出量取引制度負担金の徴収期限も用途も決まっています。

また、その肝心の排出量取引制度については「別に法律で定める」として、この法案では何ら示されていません。具体的な制度を明らかにしない上に新たな負担を国民にかける制度に、立法府の人間として賛成しようがないのです。

もう一つの新型インフル特措法は、岸田首相肝いりの「感染症危機管理庁」を設置する法案です。一見素晴らしい法案のように見えますが、新たに内閣官房に行政組織を作ってしまったために指揮命令系統が混乱することが予想されます。

5人の小所帯ですが、他のどの党より条文を読み込んで法案の賛否を慎重に判断しています。



<石橋湛山に学ぶ政治のあり方>

30日は、石橋湛山思想研究議員連盟が開かれ、鎮目雅人早稲田大学教授の「石橋湛山の経済思想の先見性」というお話を伺ってきました。



尊敬する政治家を聞かれると、私は「石橋湛山」と答えます。深い教養に基づくベラリズムと実利主義を实践した政治家は、日本の憲政史上石橋湛山が随一ではないかと思えます。

この議員連盟は今回まで野党だけで運営してきましたが、今後与党の議員も加えた超党派議員連盟として活動してまいります。戦後石橋湛山は保守合同の中核となり、初代自由民主党総裁となりました。石橋湛山の思想を学ぶことから、新しい政治の動きが生まれたらいいなと思えます。

<同志の応援 統一地方選挙 群馬・千葉>

31日は、統一地方選挙の応援に前橋市と浦安市を訪問しました。

宮崎タケシ 群馬県議会議員候補
折本たつり 千葉県議会議員候補

